

ヌル 英国在住 元ヒンズ 教徒 (前半)

:

明:
代社会における女性の地位 について考えを巡らせることが、ヌルのイスラ ム改宗につながります。
。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: ヌル

日 10 Mar 2014

集日 10 Mar 2014

私は ナヒンズ 教徒の家庭出身で、私たち女性はいずれは 婚し、子供を持ち、夫が 切であるかどうかは わらず、奉仕することが当たり前であると教えられてきました。他にも、そこには女性を抑制する多くの事柄があることに 付きました。

例えば女性は未亡人になると、常に白のサリ (衣装) を身にまとい、菜食主 となり、髪を短くし、 して再婚することが されません。また婚 を支 うのは、新 が新郎の家族に してです。新郎は、新 にとって与えるのが困 なものであっても、それを求めることが出来ます。

それだけでなく、婚 に新 が婚 を完全に支 うことが出来なければ、彼女は精神的にも肉体的にも拷 を受けることになり、夫または夫と 理の母の双方から、台所で料理中に火を付けられ、「台所死」の 犠者となり、それが事故死であるかのように装われるのです。これは に多く起きていることです。私の の父の友人の娘は去年、それと同じ 命を辿ったのです!

これらすべてに加え、ヒンズ 教における男性は、文字通り神々と同等に われています。ヒンズ 教の宗教的祝祭日のひとつには、未婚少女たちが特定の神 (シラ) を象 する

偶像を崇し、それと同じような夫を授かるよう祈ります。私の母も私がそうするように求めました。このことは、それが迷信や根拠のないものに基づいた宗教であり、女性を抑えるにぎないヒンズ教が正しくないことを私に分かせたのです。

その、英国に留学したとき、そこは男女に平等の利を与え、女性を抑せず、何でも自由なことが出来る国だと思っていました。しかし、新しい友人を作り、彼らの行く「交流」の（バヤダンスホール等）に行き、人々との交流を通してこの社会について学んでいくうちに、この「平等」は、それが唱えられているようには践されていないことが分かりました。

外面的に、女性たちは教育、仕事などにおいて平等の利を与えられているかのように見られますが、女性たちは依然としてなつた、より目立たない方法で抑されているのです。私が友人たちとバヤなどにいると、多くの人々がしかけてきたため、それは普通のことだと思っていました。しかし、そのはまだ世知らずで、やがて私は彼らが何を本当に求めていたのかを理解するようになりました。私はすぐに、まるで自分が自分ではないかのような居心地の悪さを感じました。そこでは人々に好かれるような特定の格好をし、特定のし方をしなければなりません。私は繁に居心地の悪さを感じるようになり、どんどん自分らしさを失っていきましたが、そうした状から逃れることは出来ませんでした。皆はそれぞれがしいと言っていました、私はこういったことはしいこととは言えないと思いました。

私はこうした状にある女性たちは、抑されていると思います。彼女らは周りを喜ばせようと、より魅力的な特定の格好をし、特定のし方をして人々に好きになってもらおうとしています。当、私にはムスリムの知り合いはいたものの、イスラムについて考えたことは一度もありませんでした。しかし、私は自分が足し、安心でき、他人から尊ばれるような何かを探し出さなければならない必要性を感じていました。それは、何か信じることの出来る正しい信仰です。なぜなら、しもそれによって生きている何らかの信仰を持つからです。もし夜びがしいというのを信じているのなら、人はそうします。もし酒によって人生をしむことが出来ると信じるのなら、人はそうするでしょう。しかし私はそれらが何にもがらないと感じました。一人として完全には足して

おらず、女性の求めている尊 是、そこでは 少する一方だったのです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/64>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。